

様式10 (会派用)

行政視察(研修)報告書

令和5年3月31日

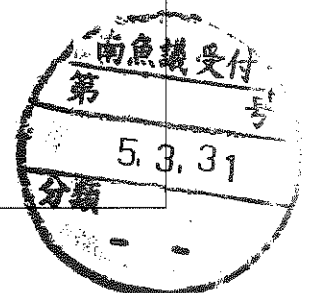
南魚沼市議会議長 様

会派名 未来創政会

代表者名 中沢 一博 印

下記のとおり、視察(研修)が終了したので報告します。

視察(研修) 参加議員名	中沢 一博 永井 拓三 大平 剛
期 間	令和 5年2月6日(月) 9時30分~11時30分 令和 5年2月7日(水) 10時~11時30分 令和 5年2月7日(水) 14時~16時
視察(研修)先	品川区(エコルとごし) 名護市(緑風学園・辺野古基地) 読谷村
視察(研修) 事 項	品川区立環境学習交流館「エコルとごし」について(品川区) 小中一貫教育について(名護市) 高齢者の健康寿命に関する取組について(読谷村)
視察(研修) 先 面 会 者	別紙参照
概要及び所見	別紙参照



政務活動調査項目

1. 高齢者の健康寿命に関する取り組みについて

*日 時 令和5年2月7日 pm 1:30~4:30

*政務活動先 沖縄県読谷村 役場 福祉課

*先方説明者 福祉課長・高齢介護係長・議会事務局

① 読谷村の概要

●総人口 41,801人 65歳以上 9,421人

65~74歳 (前期高齢者) 5,121人 (54.3%)

75歳以上 (後期高齢者) 4,300人 (45.6%)

●要介護認定者数 1,613人 (17.1%)

要介護1~5 1,314人 (13.9%)

要支援1.2 299人 (3.3%)

② 介護保険給付費の推移

- ・沖縄県は全国一位介護保険料が高いが、理由は手厚い支援施設をしている。施設数が多い事が考えられる。
- ・今後は、通所介護が吐出しているため、ここをどう予防に社会参加の促進に努めるかである。

③ これからの介護予防について。

- ・村の指針は 高齢者は “きょうよう” と “きょういく” が大事！

“きょうよう” よう→ 用 がある。

“きょういく” いく→ 行くところ がある。

住み慣れた地域に通える場があることが、社会参加につながる。

生きがいになる。 ⇒ 「介護予防」につながる。

- ・このままだと介護を受け入れが出来なくなる。

一人一人が元気である、意識してもらおう事が大事である。と

- ・地域が大事・みんなが大事、みんなで頑張っていこう！と、

地域ぐるみの努力が必要である。

④ 高齢者の健康づくりについて。

- ・健康増進センターの活用。

60歳以上回数制限なく 1カ月 1,800円

- ・介護予防プログラム 琉球ビクス、水中運動、アクアズンバ、朝ヨガ、

PT教室等々 ゆいまーる共生事業を推進している。

- ・小人数かつ短時間で、タクシー送迎付き運動を実施。

足の確保 タクシー2台を運用 年予算120万円

- ・介護予防対象者の把握。

健康推進課と連携し、少し虚弱になった人に積極的に個別訪問する事

で適切な事業に繋げて行き、重症化を防いでいる。

⑤ 地域コミュニティとの連携事業・高齢者の生きがい、居場所づくりの取り組みについて。

- ・老人クラブの活動推進。17の各単位クラブから役員を選出し連合会を組織する中で、福祉課がサポートしている。
- ・75歳以上 毎年一人5,000円を現金給付している。
- ・老人クラブ会員数の減少、役員の担い手不足の解決に向けて、活性化委員会を立ち上げ取り組んでいる。

⑥ 総括

- ・どう高齢者に生きがいを与えるか、かかわりを大事にするか？

地域で支えあいつながるシステム・仕組みをどう創るかが大事と感じた。

読谷村では「ゆいまーる共生事業」

- ・23行政区の公民館を中心とした地域づくり、趣味・ボランティアなど、家族以外のつながりを介護予防プログラムに生かし、歩いて行く場所があることの居場所づくりの大切さを感じた。

・担当者いわく、私達は特段誇ることをしていませんとの謙虚な姿勢の中で、当たり前のごとく地域コミュニティを推進し、参加率・足の確保など公民館を中心とした地域力を感じた。全国一位の長寿者(114歳)かめばあさんの村で、地域で支え合う・つながるシステムを学ばせて頂いた。南魚沼市に例えると、12地区の地域づくり協議会で、どう少子高齢化社会に地域ぐるみで取り組んでいくかが大切である。

南魚沼市議会議員
塩谷寿雄様

南魚沼市議会議員
永井拓三

政務活動報告

日時：令和5年2月6日

場所：品川区立環境学習交流館「エコルとごし」

出席者：中澤一博、永井拓三、大平剛

説明者：

調査内容：品川区の環境政策について

はじめに、品川区立環境学習交流館「エコルとごし」についての館内の各コーナーに関する説明があり、特にゲーム感覚で環境意識を高めるためのプロジェクトマッピングを行う部屋の説明がされた。日常の中に生まれてしまう無駄なエネルギーロスや環境意識の向上をはかるためのゲームを体験したところ、これまでにないアプローチでの環境意識の提案を行っていた。そのゲームの立案に関してはコンサルが入ったものの、基本的には職員の意見を反映しているという点に関してはとても熱意のある、地域的な課題が盛り込まれていたことが理解できた。

次に、施設内のエネルギー循環についての説明があった。限りなくロスを減らすために電気で光を生み出すことよりも自然光を有効に利用するための集光細工が至る所に配置されており、冷房等に関してもなるべく自然風による循環を優先した窓や換気口の配置になっている点も参考になった。

施設の建築に際してはZEBをうまく使い補助金を利活用した点では南魚沼市の健友館の建て替えに関して参考になった。ただZEBに関しては品川区の場合、施設を建設している最中に申請を行ったため、当初予算の中にはZEBは反映されておらず、補正予算で対応した経緯があったようだ。そのほかにも、幾つもの会社がプロポーザルに参加したがZEBに関してはどの業者もほぼ初めてという段階であったため。そのデザインや施工に関する部分ではより大きな資本の建設会社の方がきめの細かな社業ができるのではないかという印象を持った。

館内は、大学生や高校生も自習の場としても利用しており、社会的なアプローチという意味ではそのような利用に関して有効利用がされているという点は参考になった。

建物に関しては地元との協議が必要であるため、地元代表者を今でも行っており、良い方に話は進んでいるという立場を貫くことの難しさを理解しました。

施設内のトイレに使われている水は基本的には雨水を流用して作り、エネルギーロスの最

たる部分に利用されている。

これらを総合的に判断して、子供達への環境科学的なアプローチは成功しておると考えられる。特に年間当たり、30万人近くが来場されるという点では区内だけではなく、周辺自治体の取り組みを目で見ることができるといふ点に関して大きな学びがあった。

以上

別紙

概要及び所見

概要

令和5年2月7日

名護市緑風学園にて施設見学・質疑応答を含め90分程の視察を行う

所見

名護市緑風学園の統合・開校までの詳しい経過については別紙資料にあるが統合に際しては、やはり保護者・地元への説明が重要になるとの説明があり、またその際には保護者と地元をわけて説明会を行ったとのことであり、これは保護者側に自由に意見を言ってもらうための措置であった。このような配慮は今後の南魚沼市でも参考にすべきであろう。

また、統合時に県が前面的にバックアップをし、乗り入れ授業に必要な教職員を確保等に便宜を図ってくれたとのことであり、南魚沼市でも小中一貫校を開設することがあれば、県との事前協議等が必要であろう。

開校後も総合的な学習等で統合前の各小学校が行っていた、ふるさと学習を継続しており地域との連携を保持していることも参考にすべきと考える。

在校生徒数は166名であるが、そのうち60名程度が特認校制度を利用した校区外からの入学者であり、名護市内での緑風学園への評価がうかがえた。

概要

令和5年2月7日

辺野古新基地建設現場にて外から見学を20分程行う

所見

平日であるためか、報道等で見られた抗議者は一人しか居らず、現場ゲート前には一人もいなかった。緑風学園に向かう際にも多数のトラックが見えたが、これらのトラックが抗議活動によって道路上で動けなくなった場合、交通に明確な支障が出る立地・周辺道路環境であった。緑風学園はバス登校が多いとのことでありそうな場合、生徒の登下校に影響がでないか心配である。

品川区 政務活動写真



読谷村 役場 政務活動 写真



名護市 政務活動写真

